

令和6年7月21日

富士吉田市教育委員会
教育長 渡邊 治男殿

顛末書

有限会社 コア・スポーツプラザ
取締役 早川 増雄

令和6年7月17日に発生した水泳授業中の体罰について経緯と今後の対策を下記の通り報告致します。

記

【発生日時】 令和6年7月17日（水） 9:40頃

【発生場所】 コア・スポーツプラザ プール 5,6コース

【内容】 水泳授業中の体罰

【経緯】

私は一番泳げるコース（12名）、当該児童（以下K君）を含むほとんどがコアのスクールのグループを担当していました。練習は全員水慣れが出来ているので待ち時間を自由に遊べるようプール内待機とし、子ども達の笑顔が絶えない指導を心掛けていました。

しかし、その際に何人もの児童から「K君に殴られた、蹴られた、押された等」の苦情が寄せられました。水中でのことですから、私が直接目視で確認したわけではありませんがK君に言葉で注意をしました。その後、担当の先生がK君を水から上げ注意しているのを確認しています。その時のK君の様子はしょんぼりしているように見えたので「先生、大丈夫です。私に対応します。」と伝えました。これは後に保護者との会話の中で私の勘違いだったようですが、K君の祖母から「私が預かった」という認識がありましたので、先生にそのように伝えました。

当該日、この日も子ども達は笑顔で元気に参加していました。しかし、1回目と同様にK君に関する苦情が多く、口頭による注意の限界を感じました。安全の為にプールサイドに座らせ1人ずつ指導するとともに、「3回注意でケツピン、5回注意で頬ピン」とルールを決めました。K君は体格が良く、他の子は小さいので不意に押されるだけでも溺水事故の危険を

感じての対策でした。そんな時でも元気な子ども達はプールに浸かりたく、ふざけて入水はしていましたが、普段からプールに慣れている子ども達ですので黙認していました。

ただまだそこで K 君に関する苦情が入ったので、全員をプールサイドに座らせ K 君に注意をしました。その際に頬から 10 cm 位離れたところから手首を返し、頬を叩いて注意を促しました。

その後の自由時間（休憩）に全員プールに入水させましたが、その際にも K 君が他の児童を押す危険行為を行なったため注意をしました。その後も改善せず水に潜ってふざけていたので、プールから上げるようプール内の階段へ後頭部と前頭部を押さえ 1～2m 移動させました。そこで「言うことが聞けないならプールから上がれ！」と注意しました。

反省して「練習をする」ということでしたので再度練習に戻し、個別指導時に「体も大きく運動神経の良い血筋なので、練習に集中して上手になれよ」と声を掛け笑顔で練習を終えました。

このような流れの中で今回の事案が起きてしまいました。いかなる理由でも、手を出したことに弁解の余地はなく深く反省しています。また体罰に対する私の認識不足から K 君と保護者、学校の先生方、教育委員会、関係者の皆様に不快な思いとご迷惑をお掛け致しましたこと深くお詫び申し上げます。

【再発防止策】

今後このようなことを二度と繰り返すことがないように 1 人で対応するのではなく、先生に相談をしながら水から上げるなど役割分担して安全で楽しい授業にしていきます。

また学校の教育活動の一環であることを十分に理解し、今後の指導にあたっては私だけでなく組織全体として研修等を実施し絶対に体罰を行わず、教育的な立場で指導に当たるよう固く誓います。

以上